

## 課題の概要

- 課題名 「若手先端科学研究者の研究環境改革」
- 総括責任者名 「学長 高田 邦昭」
- 機関名 「国立大学法人 群馬大学」
- (実施予定期間：平成22年度～平成26年度)

### 機関の現状

#### (1) 機関の有する研究ポテンシャル (欧米との比較を含む) の内容

医学系研究科は、平成15年度に大学院を重点化、先端的生命医科学研究を推進できる研究教育体制とした。平成14年度から21世紀COEプログラム「生体情報の受容伝達と機能発現」を実施、生体調節シグナル研究において世界トップレベルの成果を挙げた。平成19年度からはグローバルCOEプログラム「生体調節シグナルの統合的研究」を実施している。また平成16年度からは21世紀COEプログラム「加速器テクノロジーによる医学・生物学研究」を実施、放射線医学・生物学研究のCOEを構築した。一方、工学研究科では平成19年度に大学院を重点化、現在12の研究会在が活発に活動している。中でも、平成17年度に「連携融合事業」として採択されたケイ素・炭素プロジェクトは、産業界との連携、学際研究の推進によって世界トップレベルの成果をあげつつあり、平成20年度には新たに理化学研究所と連携してケイ素科学国際教育研究センターを設立、既存の学問分野を超えた教育・研究活動を展開している。

#### (2) 機関における若手研究者の育成に関する取組実績

学長裁量経費による競争的な研究助成が行われている他、医学系研究科では、研究科長を中心とする委員会による教員の業績評価、任期付教員の公募採用と再任評価を実施している。またこれまで実施した3つのCOEプログラムにおいて、若手研究者をCOE研究員として採用、業績を厳密に評価して研究費の傾斜配分を行ってきた。同時に海外からの若手研究者を交えたCOE国際セミナーなど特色ある教育的プログラムも行ってきた。その結果COE研究員の中には医科学・生命科学の先端領域で活躍するものが輩出しつつある。工学研究科においても、部局長裁量経費から若手教員を対象とする競争的萌芽プロジェクト支援や、短期海外留学助成が行われている。また教授を含む女性教員、外国人教員も活躍している。

### 人材養成システム改革・若手研究者育成の構想

本学では、優秀な若手研究者に先端的な研究を発展させる機会を与えるため、学際的研究環境を構築すると共に、若手研究者の自由な発想が活かされる教育研究システムの実現に取り組んでいる。本改革ではこれを推し進め、既存の組織・研究体制の枠を超えた先端科学研究指導者育成ユニットを創設、最先端の科学研究を自立的に遂行できる若手研究指導者を育成する。新設ユニットにはテニュアトラックポスト (YA (Young Ambitious) 教員、5年の任期付) を導入、YA教員を国際公募・選定、十分な研究費と研究スペースを支援し、その自由な発想を最大限に活かすことで、若手先端科学研究者の研究環境改革を推し進める。またメンター・アドバイザー制によりYA教員の自主性・独立性を尊重し、多面的に支援する。さらにYA教員には大学院生等の指導に関与する機会を与えることにより、確かな教育能力も有する研究指導者の育成を目指す。着任5年目にYA教員の業績を外部評価員を交えたユニット評価委員会により適正に審査、高い業績を挙げたYA教員を医学系研究科等での安定した職位 (教授・准教授等) に就かせ、これに就けないYA教員は2年間に限度に継続雇用する (セーフティネット)。さらに研究人材養成システム検討委員会を設立、この試みを大学全体の人事制度改革にフィードバックし、研究活動の活性化、人材の流動性の活性化を図る。

### ミッションステートメントの概要

#### 中間時 (3年目) : YA教員の支援・評価と共同利用施設の拡充による教育研究環境の整備

初年次、二年次、三年次に国際公募により採用したYA教員に、十分な研究費と研究スペースを提供して、自立的な研究活動を支援する。また既存の共同利用スペースの拡充、共同利用機器の充実化を進める。さらに教職員を再配置して教育研究活動の活性化、人材の流動性拡大に向けた組織改革を推進する。また初年次採用のYA教員の間接評価を行い、研究費・研究スペース配分に反映させる。

#### 終了時 (5年目) : 若手研究者のステップアップシステムと世界的研究拠点構築のための体制整備

学長の強力なリーダーシップの下に、テニュアトラックポスト、その受け皿としての安定した職位を用意、国際公募により、将来性豊かな若手研究者を採用、その能力を最大限発揮できる環境を与え、5年後の最終審査で優れた業績を挙げた研究者に対して安定した職位を提供するステップアップシステム (テニュアトラック制) を確立する。さらには研究人材養成システム検討委員会のもとに、本改革をモデルとして、大学全体の人事の流動化・活性化を図り、群馬大学に世界的教育研究拠点を構築するインフラを整備する。

若手先端科学研究者の  
研究環境改革

総括責任者：学長

大学全体の人事制度改革

研究人材養成システム検討委員会

改革の支援・助言

テニュアトラック制  
の評価・助言

ユニット評価委員会  
外部評価委員  
内部評価委員

大学院医学系研究科

先端科学研究  
指導者育成ユニット  
(ユニット運営委員会)

YA教員の選考・評価

大学院工学研究科

YA准教授・  
YA助教

研究支援・育成環境支援

テニュアポストの確保

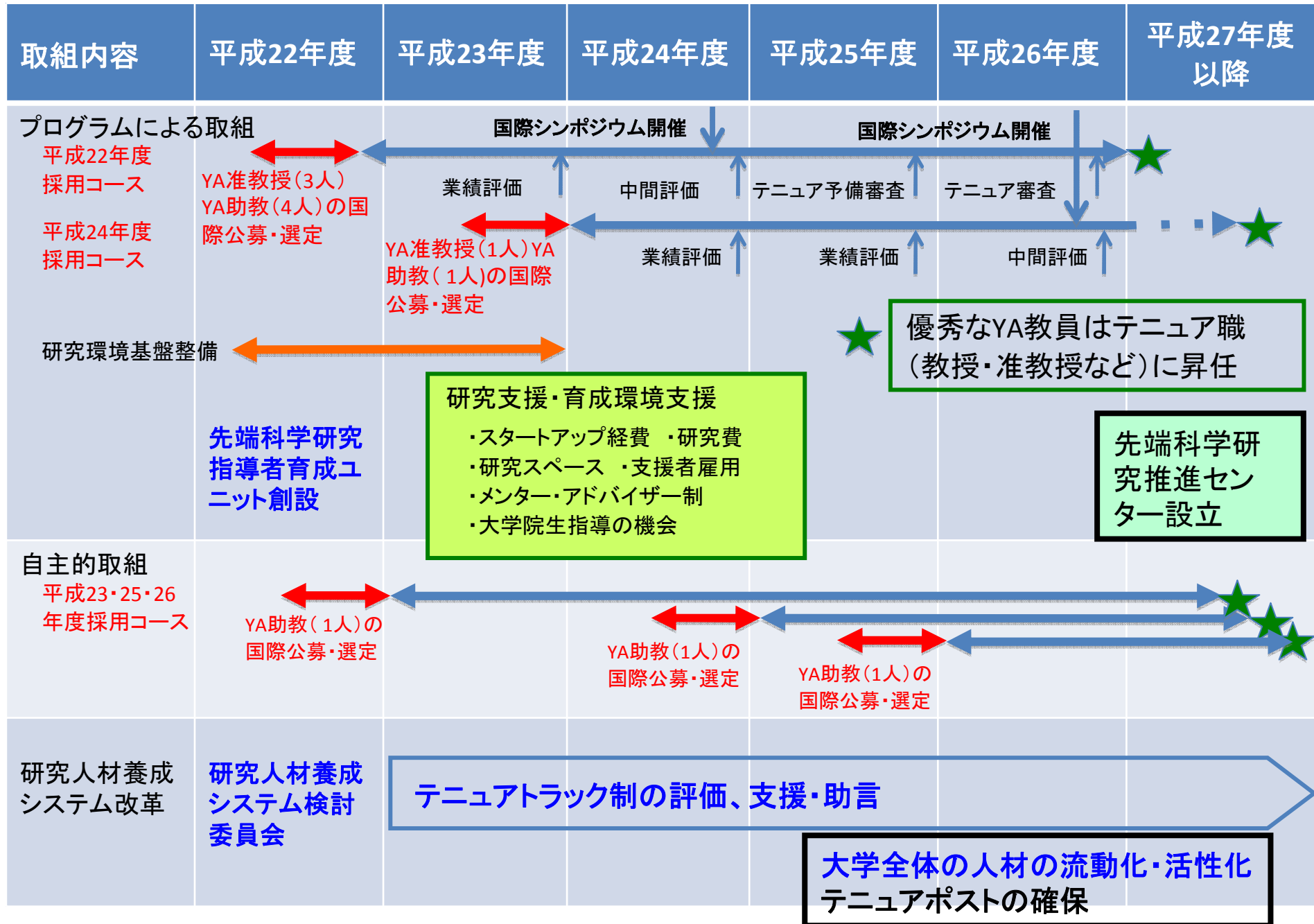
生体調節  
研究所

医学部  
附属病院

重粒子線医学研究  
センター

# 若手先端科学研究者の研究環境改革

国立大学法人群馬大学



## ミッションステートメント

○課題名	「若手先端科学研究者の研究環境改革	」
○総括責任者名	「学長 高田 邦昭	」
○機関名	「国立大学法人 群馬大学	」

(実施予定期間：平成22年度～平成26年度)

### (1) 人材育成システム改革構想の概要

本学では、学際的研究環境を構築すると共に、若手研究者の自由な発想が活かされる教育研究システムの実現に取り組んでいる。本改革ではこれをさらに推し進め、既存の組織・研究体制の枠を超えた先端科学研究指導者育成ユニットを創設し、最先端の科学・技術研究を自立的に遂行できる若手研究者を育成する。そのために、新設ユニットにテニユアトラックポスト（5年の任期付のYA (Young Ambitious) 教員）を導入し、国内外に広く候補者を公募し、外部評価員を交えたユニット評価委員会が、業績及び研究提案について審査の上、YA教員を採用する（女性研究者・外国人研究者を少なくとも1人は採用するように努める）。YA教員には十分な研究費と研究スペースを支援し、研究の自主性と独立性を尊重しつつメンター・アドバイザー制による支援を行う。さらに、大学院教育に関与する機会を与えることにより、確かな教育能力をも有する研究指導者の育成を目指す。さらに国際シンポジウムの企画・運営・研究発表を通じて、研究成果等を海外に発信する力を涵養し、国際学会等のための海外旅費の支援を行うことによって、国際性を涵養する。さらに、学長主導のもとに研究人材養成システム検討委員会の支援を受けて、既存の教員ポストに逐次テニユアトラックポストを導入し、大学全体の人事の流動化・研究の活性化を図り、若手研究者の研究環境を整備し、先端科学研究推進センター、医学系研究科、工学研究科、生調研、医学部附属病院、重粒子線医学研究センターなどにおける安定した職位（教授、准教授）に就くことが可能な体制を学内に構築する。これらの取組により、本学に世界的教育研究拠点を構築するためのインフラを整備する。

### (2) 3年目終了時における具体的な目標

国際公募により1年目に採用した7名のYA教員に対して、業績自己評価や国際シンポジウムにおける発表などによって、ユニット評価委員会が中間評価を行い、研究費・研究スペースの配分に反映させる。2年目に自主的取組で採用したYA教員1名、および3年目採用のYA教員2名について、研究の進捗状況を評価する。医学系研究科及び附属病院にテニユアトラックポストを導入する。4年目の自主的取組で採用予定のYA教員の国際公募・選定を行う。

### (3) 実施期間終了時における具体的な目標

5年目に国際シンポジウムを開催し、YA教員に研究成果を発表させる。1年目に採用した7名のYA教員のテニユア審査を行い、優れた業績をあげたYA教員を安定した職位に就かせるために、実施期間終了後に設置する先端科学研究推進センター、医学系研究科、工学研究科、生体調節研究所、医学部附属病院、重粒子線医学研究センターにテニユアポスト（教授ないし准教授など）7席を用意する。2年目に自主的取組で採用したYA助教のテニユア予備審査を行う。3年目に採用したYA教員の中間評価を行う。自主的取組で採用した4年目および5年目のYA助教の業績を評価する。

### (4) 実施期間終了後の取組

先端科学研究指導者育成ユニットを改組して新たに先端科学研究推進センターを設置すると同時に、ユニット評価委員会をセンター評価委員会へ移行する。実施期間終了後以降に、それまで採用した12名のYA教員のうち評価委員会で高い評価を受けた者を、先端科学研究推進センターに1名、医学系研究科、生体調節研究所、医学部附属病院、重粒子線医学研究センターに合わせて7名、工学研究科に4名、順次テニユアポスト（教授ないし准教授など）に移行させる。テニユアポストを得られなかった者に対しては、2年間を限度として継続雇用し、進路アドバイス・外部機関へのリクルート支援などを行う（セーフティネット）。退職する教員のポストなどを移行してテニユアトラックポストを拡大し、国際公募により将来性豊かな若手研究者を採用し、研究費を重点配分する。この人事改革の試みを、学長が主導する大学全体の人事制度改革にフィードバックし、大学全体の研究活動の活性化、人材の流動性の活性化を継続させる。

### (5) 期待される波及効果

本学の自然科学系教育研究部門における、若手研究者を登用し業績に応じてステップアップさせるテニユアトラック制の試みは、本学全体に人事の流動化を波及させ、研究を活性化させる効果を持つ。これにより本学に世界的教育研究拠点を構築するインフラが整備されると期待される。先端科学研究推進センターは、課程制大学院教育の実質化に貢献し、若手研究者を自立的な研究能力と確かな教育指導能力を兼ね備えた研究者に育成するシステムである。世界最高レベルの教育研究活動のモデルとして、他の大学・研究機関に対して大きな波及効果を持つと期待される。